

2023 年度 慶應 SFC 学会研究助成金 (D) 成果報告

日本人改宗ムスリムの映像オートエスノグラフィー

”Madani International Film Festival”での映像作品及び日本のムスリム社会に関する発表

活動概要

日時：2023 年 10 月 8 日～10 月 13 日

場所：インドネシア・ジャカルタ

ジャカルタで開催された国際映画祭に参加し、トークイベントで日本のムスリム社会や日本人改宗ムスリムである「私（筆者）」の宗教実践などの報告を行った。

活動目的

本研究は人生の途中でイスラームに改宗した「私（筆者）」が日本に暮らすムスリムの宗教実践などを映像で記録し、表現することで、宗教や国籍の垣根を超えた共生社会の実現に貢献することを目的とするものである。

今回の活動では、世界最大のムスリム人口を抱えるインドネシアの首都ジャカルタで 2023 年 10 月 7 日から 10 月 12 日の間に開催された”Madani International Film Festival”という映画祭に参加した。映画祭にて日本に暮らすムスリム達の状況や「私」の宗教実践の報告を行い、生まれながらにしてムスリムである人の多いインドネシアに暮らす人々に、ムスリムの多様なあり方を示すことが本活動の狙いである。



活動内容

映画祭では、私が参加する「ヤングムスリムの窓」という映像プロジェクトの発起人でもある映像作家の澤崎賢一氏が、プロジェクトの取り組みをまとめた映像作品を上映し、その後、野中葉准教授と私がパネリストとなって、日本のムスリム社会の状況や私自身の宗教実践に関する質疑応答を行った。質疑応答では、日本国内におけるムスリムの増加と自殺率の高さの



トークイベント時の写真

関係性や、私がインドネシア系のモスク（イスラームの礼拝所）で改宗した理由を尋ねられた。日本で発表した時には聴かれたことのない質問だったため、視点の違いを感じた。同時に、改宗の経緯や改宗前後の変化など、常に聞かれる質問もあるのだと実感した。日本では私が公園などの人目につかないところで礼拝をすることがある、という私の発言にファシリテーターが衝撃を受ける場面もあった。生活の環境によってイスラームに対する向き合い方が違うことを確認でき、ムスリムがマイノリティの国である日本から発信する意義を感じた瞬間でもあった。

日本のムスリム社会に関する調査報告に加えて、出展されていた映像作品を視聴し、出展者との意見交換も行った。映像を通じて、パレスチナやインドネシア、パキスタンでムスリム達が置かれた状況を知ることができた。ムスリムがマジョリティの国で制作された映像作品は、イスラームの宗教実践が当たり前で描かれていた一方で、日本のムスリム社会を扱う「ヤングムスリムの窓」の作品は、イスラームの実践を特別なものとして扱う。映像作品での宗教実践の扱われ方の違いからも、ムスリムを取り巻く社会状況の違いを感じることができ、興味深い経験だった。

今後の活動

これまで私は、日本に暮らすイスラームの馴染みのない人たちに向けて、ムスリムの生活を知ってもらうことを目的に映像を制作してきた。しかし、今回の映画祭を通じてムスリムがマジョリティの国に暮らす人たちに向けて、ムスリムがマイノリティの日本における宗教実践を発信することは、ムスリムの多様なあり方を表現し、様々な立場にいる人の当たり前を問い直す機会となることがわかった。今後も日本に暮らすムスリムの状況を映像で表現しながら、国外に向けた発信をしていこうと思う。今回の活動で知り合ったパキスタン出身の映像作家と、パキスタンでの映像上映会を検討している。今回も発信を増やしていきたい。

謝辞

本活動の実施にあたり、インドネシア滞在の支援をして頂いた野中葉先生、トークイベントに招待して頂いた“Madani International Film Festival”関係者の皆様、そして活動助成をして頂いた慶應 SFC 学会に深くお礼を申し上げます。